



現在、市内には津、久居および香良洲地域に3つの市営斎場と美杉地域に6つの市営火葬場があります。これら3つの斎場はいずれも建設から相当の期間が経過しているため、平成27年1月の供用開始を目指して新たな斎場の建設整備を進めています。新たな斎場の整備に当たっては、総事業コストの縮減と公共サービスの一層の向上を図るため、合併特例債を活用するとともにPFI手法を採用することとしています。今回は、新たな斎場の整備として採用する「PFI手法」について、津市PRキャラクターのシロモチちゃんとゴーちゃんが分かりやすく解説します。

る合併特例債を活用するほか、PFI（ピー・エフ・アイ）っていう手法を使うんだ。

**PFI？それって、なあに？**

PFIってというのは、Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の略語で、県や市などが新たに施設を造ったり、運営するときに、民間のノウハウや能力を生かした手法のことをいうんだよ。今回の新しい斎場を例に説明すると、これまでは、設計は設計会社に、建設は建設会社と火葬炉会社に、維持管理

は維持管理会社に、運営は運営会社にそれぞれの仕事をしてもらうために、仕事の内容をあらかじめ細かく決めてただけで、PFI手法では、最初から細かく内容を決めずに、大まかな内容だけを決めて、複数の民間会社にグループを作ってもらい提案してもらうんだ。そして

一番良い提案をしてきたグループを選ぶんだ。選ばれたグループは、新しい斎場を設計、建設、維持管理、運営するための特別目的会社をつくり、津市と契約を結ぶんだ。これがPFI手法って呼ばれているんだよ。

**なるほど。それで、PFI手法ってどんなメリットがあるの？**

一番大切なことは、利用する人により良いサービスを提供することだよ。設計、建設、維持管理、運営をする人が一緒になって話し合いながら新しい斎場を造ることで、斎場を利用する人に最良のサービスを提供することができ、維持管理や運営のことを考えた斎場を造ることができるんだよ。

**ふ〜ん。そうなんだ。でも新しい斎場ができたあと、特別目的会社が維持管理や運営をするってことなんだけど、サービスが低下するなんてことはないの？**

うん。大丈夫だよ。ちゃんとサービスをしてるかどうかを市がきちんとチェックして、もし悪いところが見つかったら、すぐに直すように注意をすることになってるんだよ。

**そうなんだ。みんなが利用しやすい、良い斎場ができるんだね。**

